



がんと診断されたら緩和ケア

愛知県がんセンター中央病院
緩和ケア部 緩和ケアチーム





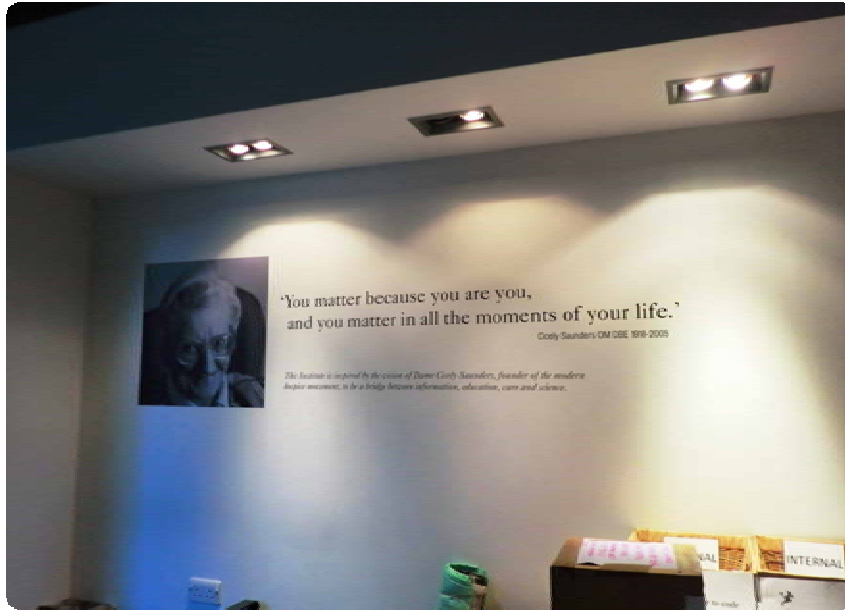
緩和ケアって何？

緩和ケアの定義

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している**患者とその家族**に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を**早期**に発見し、的確なアセスメントと対処（治療・処置）を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、**クオリティ・オブ・ライフ**を**改善**するアプローチである。

WHO 2002 （日本ホスピス緩和ケア協会のHPより）

世界の緩和ケア



セント・クリストファーホスピス
近代緩和ケア 設立者
シシリー・ソンドース

You matter because you are you,
and you matter in all the moments of your life.
and we will do all we can, not only to help you die peacefully,
but to live until you die.

Cicely Saunders OM DBE 1918-

日本における歩み

1969～1972年 柏木哲夫医師がアメリカにてOCDP
(Organized Care Dying Patient: 終末期患者へのチームアプローチ)を体験

1973年 淀川キリスト教病院でOCDPを実践

1977年 死の臨床研究会の発足

* セント・クリストファーホスピスを訪問した医師の記事が朝

日新聞に掲載される

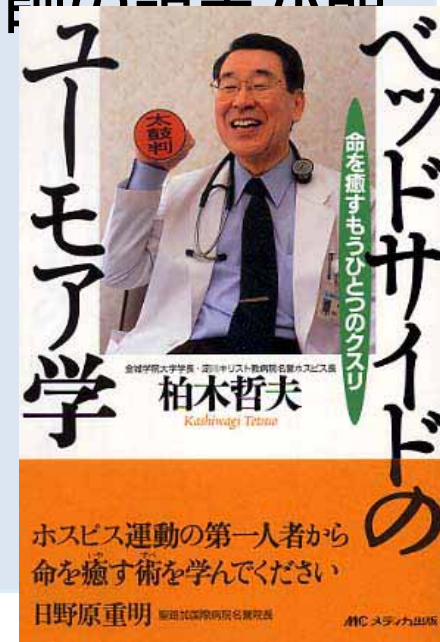
* 戦後、初めて病院死が在宅死を上回る

1981年 聖隷三方原病院に院内独立型

ホスピスの開設

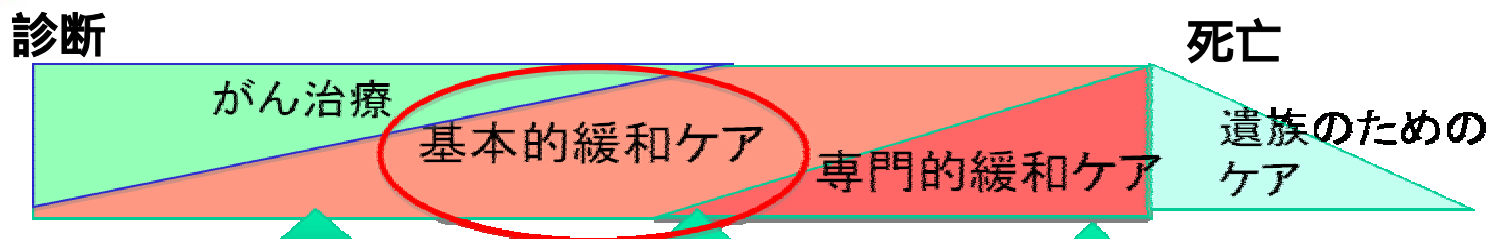
1984年 淀川キリスト教病院に院内病棟型

ホスピスの開設





がんと診断されたら緩和ケア



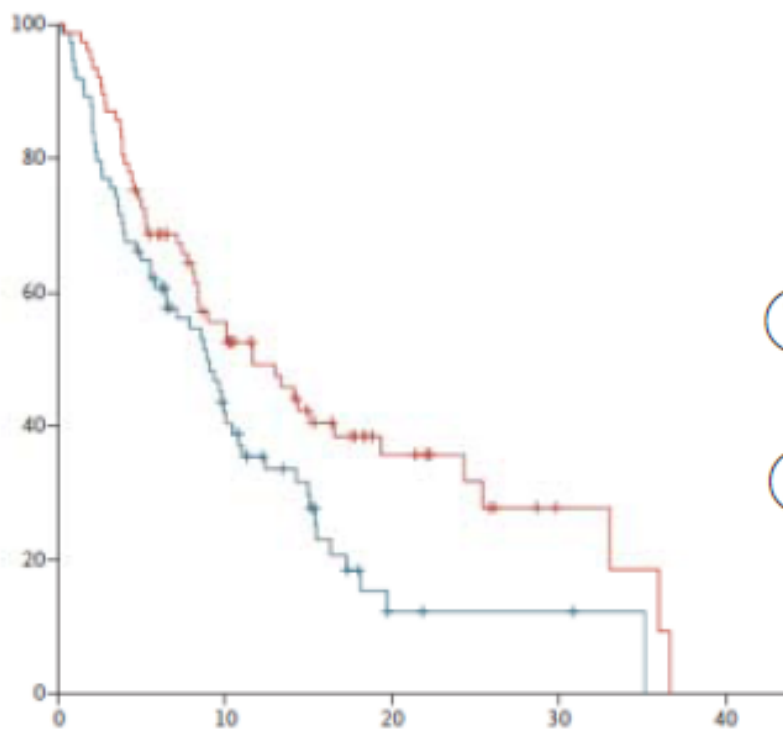
がんの診断・最初の治療
・不安の軽減を含む精神的な支援
・治療(手術・化学療法・放射線療法など)の安全・安楽の保障
支持療法

治療の途中でも苦痛症状があれば取り除き、
治療を受けやすくする
・治療に伴う副作用や合併症対策
・積極的な症状コントロール
・精神症状(不安・抑うつ・せん妄)への対応

生きることを支援する
・精神的ケア・スピリチュアルケア
・家族ケア・積極的な苦痛の緩和

Temel JS. N Engl J Med 2010; 363: 733

早期からの緩和介入により、生命予後が改善する



- ① — 早期からの緩和介入 (N=77)
- ② — 対照 (N=74)

P value=0.02

Median survival

(①11.6カ月 対 ②8.9カ月)

生存月数



当院の緩和ケアチームの歴史

- 1989年 麻酔科が中心となり疼痛マニュアルなど作成
- 1998年 疼痛緩和医療施行グループ 立ち上げ
- 2001年 緩和医療(ケア)チームが組織される。
- 2003年 緩和ケア部 設立 現在の緩和ケアチーム

理念

「がん診療の早期から緩和ケアに関する専門的な知識や技術を提供することにより、がん患者やその家族のQOLの維持・向上を図る」

緩和ケアチームのメンバー紹介



(運営体制)

緩和ケア部長 細田先生
精神腫瘍科医 小森先生
ペインクリニック 木村先生
専従看護師 山崎(がん性疼痛看護)
薬剤師 水野・立松・松崎

外来・向井(がん看護専門看護師)
9東・新田(がん性疼痛看護)
8西・藤田(がん性疼痛看護)
8東・永田(緩和ケア)
7西・深谷(緩和ケア)
病棟リンクナース

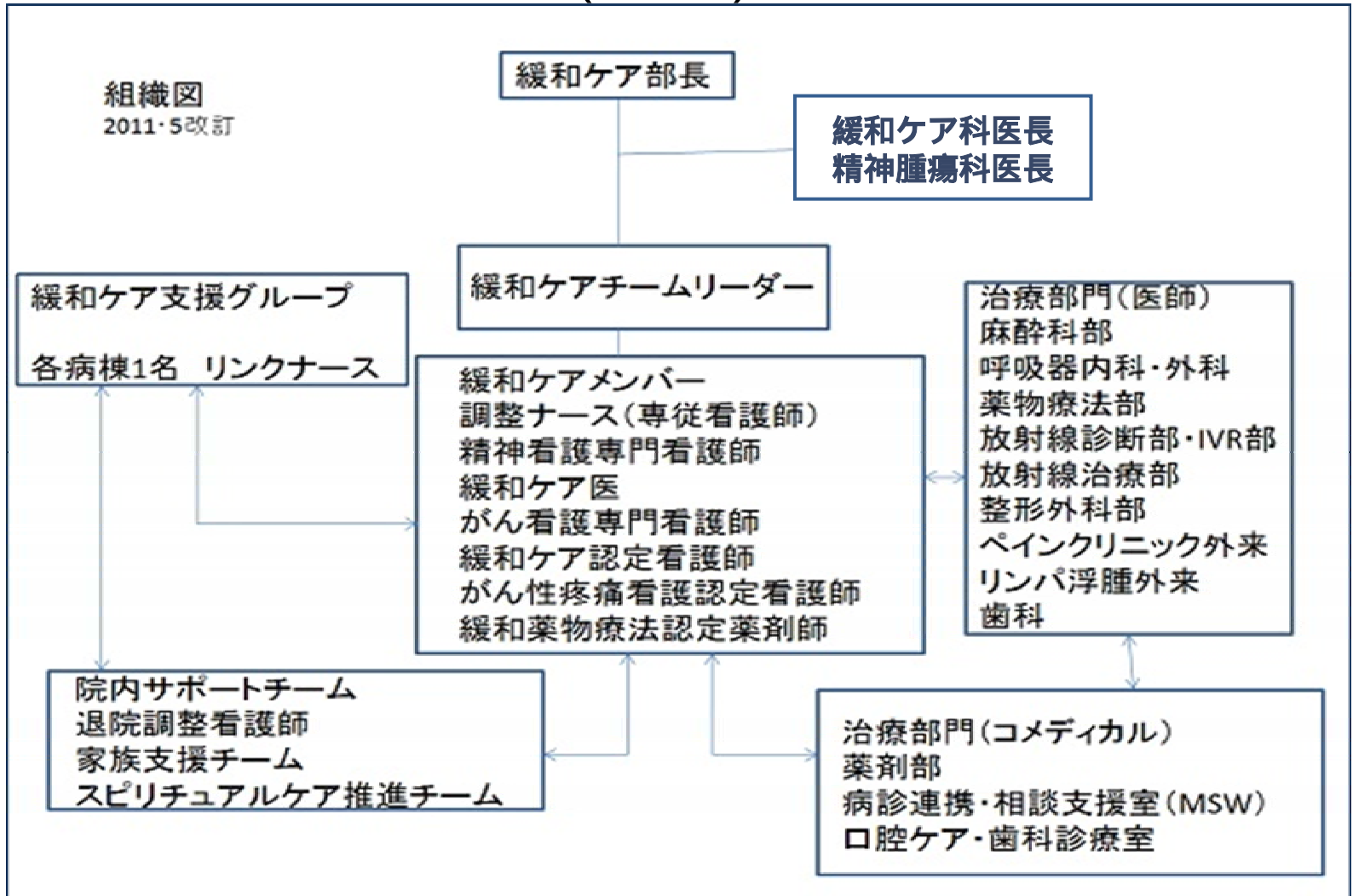


ナラティブ
小森です。

7月1日から
緩和ケア科医長
として赴任した、
下山です。



主治医を中心とした コンサルテーション(相談)型 緩和ケアを実施





緩和ケアチームの役割

- 痛みやその他の身体的な症状の軽減と精神側面、社会側面、スピリチュアルな側面への支援をおこない、安全かつエビデンスに基づく質の高いケアを提供する。
- 患者・家族とのコミュニケーションを通じた治療や療養の場の決定に関する意思決定支援。
- 鎮静や輸液の適応、DNRなどについて倫理的側面からの助言
- 家族ケアの推進
- 他職種によるチームアプローチを推進し、多角的に患者・家族をアセスメントし個別性のあるケアをおこなう。
- シームレスな緩和医療をおこなうために地域の緩和ケア関連機関との関係を築き連携を図る。
- 医療従事者に対し緩和ケアの知識と技術の普及に努める。

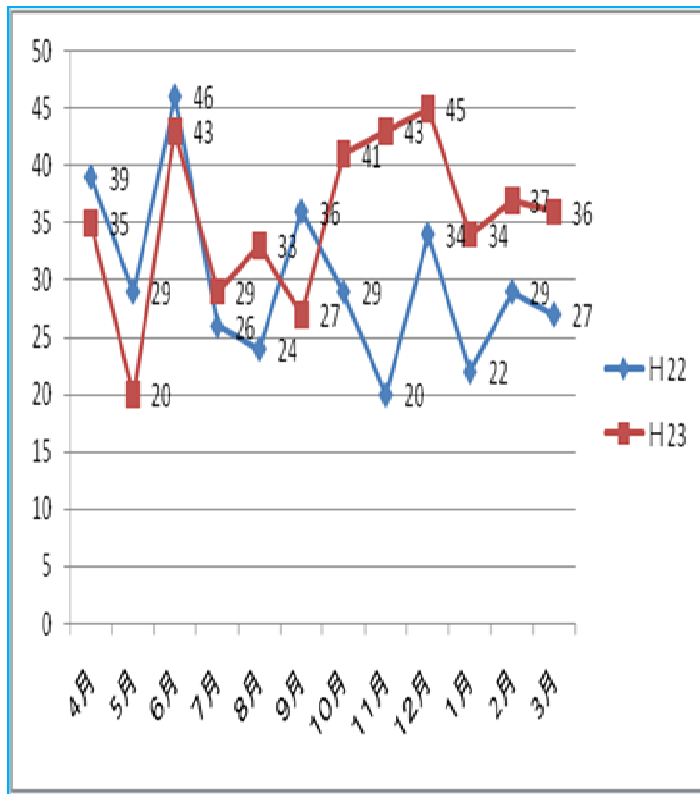


活動内容

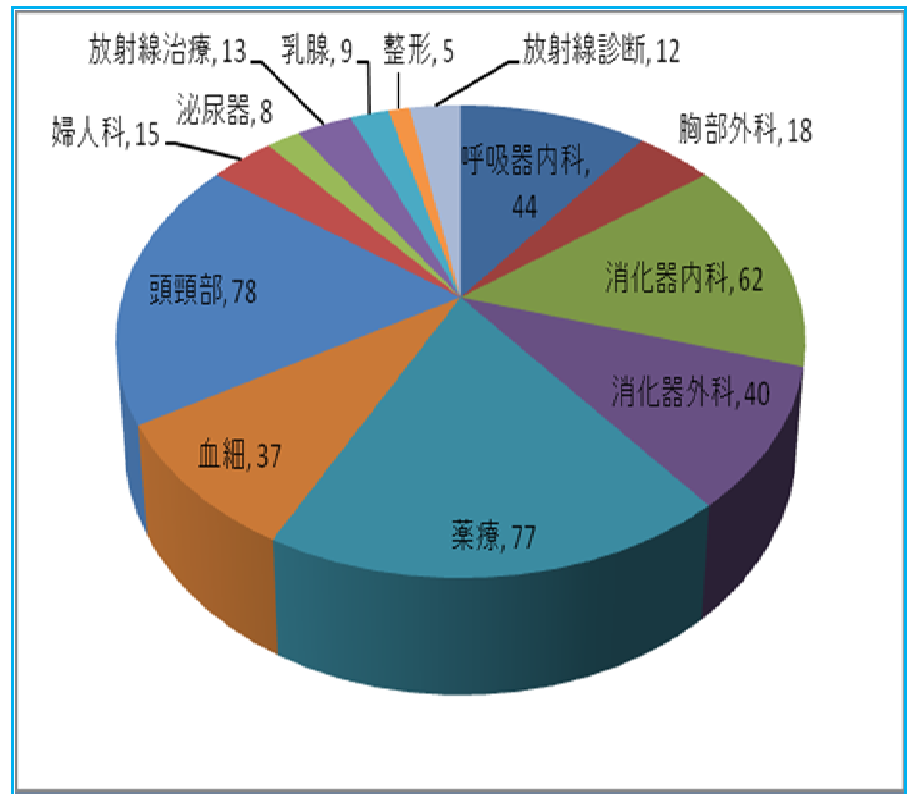
- 1 コンサルテーション活動
毎日専従看護師が病棟、外来のラウンドをおこない、フリーアクセスで緩和ケアの相談を受けている。
- 2 緩和ケア委員会(第1木曜日)
リンクナースと情報交換、事例検討会
- 3 ペインクリニック(週1回)
- 4 緩和ケア症例カンファレンス
- 5 緩和ケア通信の発行
(月1回)
- 6 勉強会の開催
(第1木曜日・18時～)



緩和ケアチームへの 新規相談件数



新規相談依頼件数
平成22年度
平成23年度



平成23年度 科別相談件数



活動内容

平成23年度 1年間の相談件数 約350件

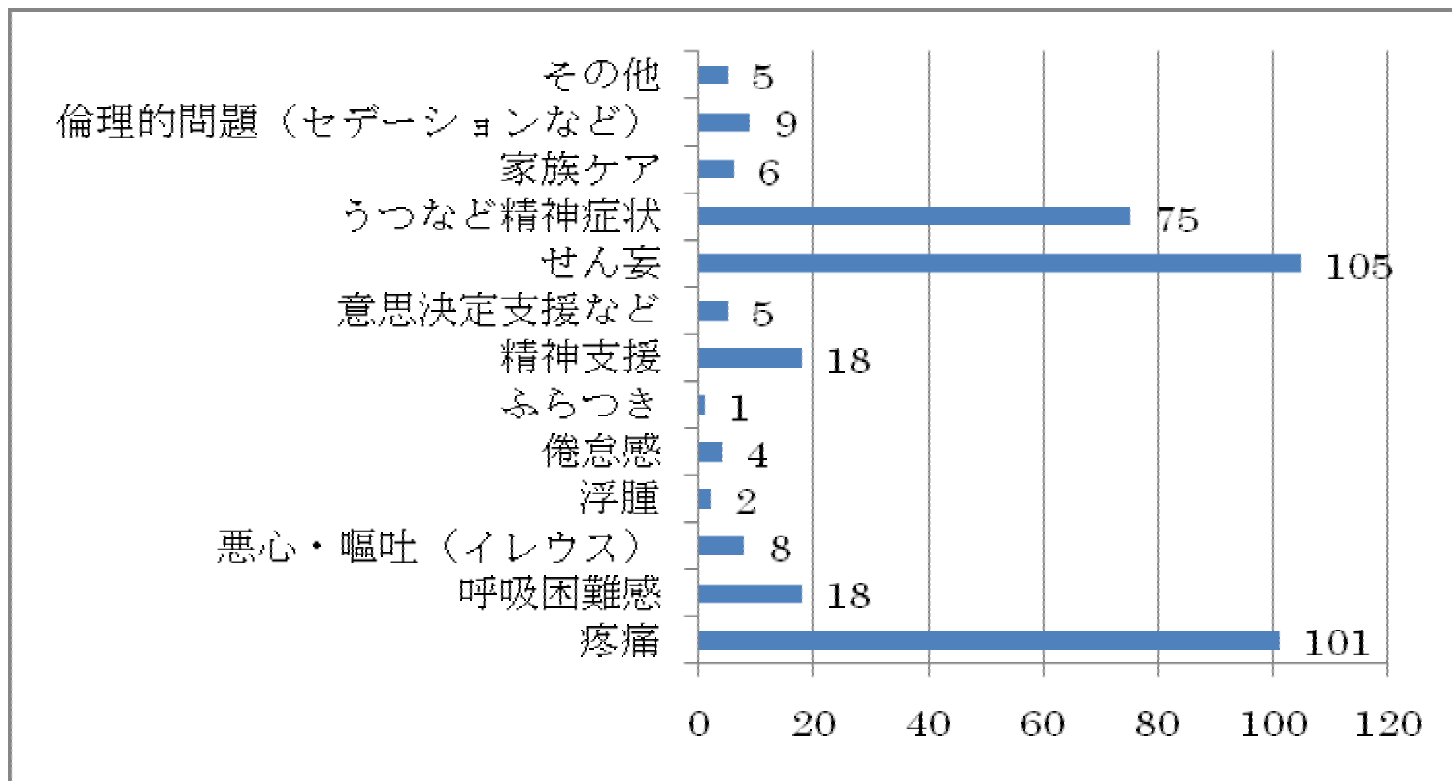


図1 平成23年度 相談内容



がんの痛みと緩和ケア

- 当院では薬物療法を中心とした治療に加え
- ペインクリニックによる神経ブロック
- 放射線診断科によるIVR

椎体形成術(骨セメント)

経皮的ラジオ波焼灼術

・放射線治療

外照射

ストロンチウム

様々な治療を駆使して痛みを緩和します



こころの痛みと緩和ケア



Anti-Cancer League



第7回
名古屋がん学術
緩和フォーラム
愛知県がんセンター

2009.7.25

人形劇・ムッシュ・デブレンに訊く ver.5



外在化心理教育とは

「病室が居場所であって、人間やその人間関係が居場所ではない」

—Walter D. Ryle, MD—

病室と患者個人を分けて考えることを推奨する病室は、既に世界各地で実践されています。アメリカ、カナダの病室が対象「レスター・コートビル・モデルケア」、オーストラリアでの「ボジツの緩和病室」「トネギー」、日本の鎌倉がん医療センター「レスター・モデルケア」、オーストラリアの癌治療施設「カニオン」等です。そして今、うつ病にも拡大されました。

もしも「うつ病」が話したら？

「ムッシュ・デブレン」とは、「Depression=うつ病」を擬人化したものです。おどおどこんな人形劇を上演するのは、問題の克服において遊び心を加味し、患者さんにご慰め、そして医療従事者が問題に対して「アジャイル」に再挑戦を促されたいというからです。

「抗うつ薬を3ヶ月のんで捨てるうちは、いいでしょう。しかし、それが習慣化したとしたら？ うつ病が身について、問題と患者さんの生活両面との境界がはつきりしなくなります。睡眠が奪われ、食欲が意欲と解表されかねません。そうなれば、治療は視野狭窄に陥り、リハビリも進みません。ですから、臆えず問題と患者さんをはき分けて考えらる習慣が必要になるわけです。

「ムッシュ・デブレンに訊く」は、そんな習慣を半信に身につけられるように作成されました。第一幕ではデブレンの物語が、そして第二幕では患者さんたちの自らの対話術が、あきまに示されています。

さて、冒険は一先お休み、上記フォーラム第一回「精神腫瘍学」(小島康永)での世界初演をお見逃しなく！



Anti-Cancer League
www.pref.aichi.jp/cancer-center/200/235/index.html

脚がムズムズして、
落ち着かず、
歩くと楽になる・・・
あなたは**アカシジア**かもしれません。

緩和ケアチーム通信 # 4 [2010.1.14]

アカシジアは、吐き気止めやせん妄のくすりを飲んでいる方にまれに見られる、いわゆる副作用です。とてもいやな気持ちのするものですが、致し方のない不安と思われ、相談されない患者さんもみえます。適切な治療により劇的に消失することが

多いので、お心当たりの方は是非スタッフにお話してください！



体験談

「目が覚めた時に、いつもの自分と全く違うことに気づきました。そわそわと落ち着かず、2秒と同じ姿勢でいられないのです。点滴を引かながらせまい室内をうろたふ動き回る事しかできませんでした。まるで動物園のゴリラでした」

40歳女性、悪性リンパ腫

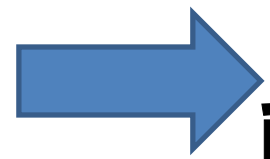
詳しくは
アンチ・キャンサー・リーグの「メンバーの声」をご覧ください



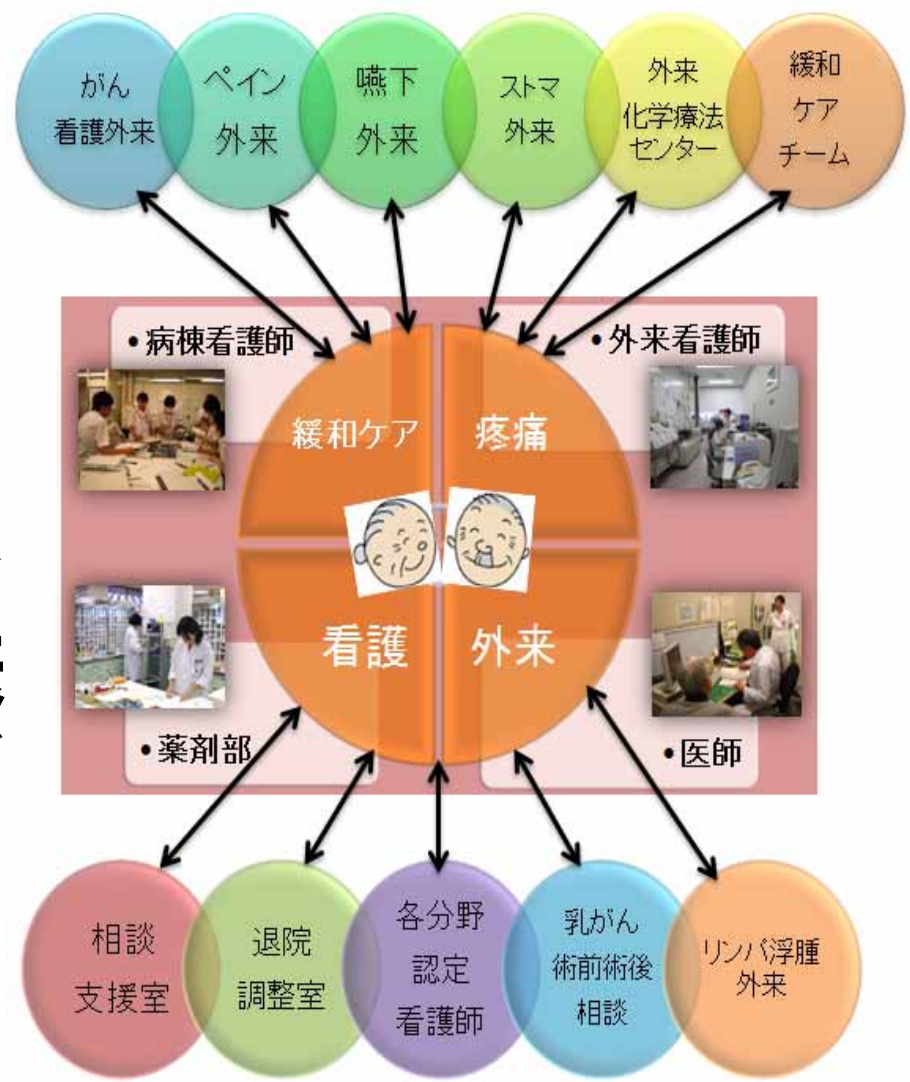
チーム医療でささえます

こんなことに悩んだら
緩和ケアチームへご相談ください

- 診断直後の不安や落ち込み
- 治療前からの痛み
- 放射線や抗がん剤の副作用
- 手術後の痛み
- 再発や転移による痛み
- 息苦しさ
- 倦怠感
- 食欲不振・吐き気・嘔吐
- リンパ浮腫
- 医療費の問題
- 転院や自宅療養についての不安
- 自分の存在や生きる意味
- 不安や気分の落ち込み
- 家族の心や気持ちの問題



チーム医療





自宅での緩和ケア

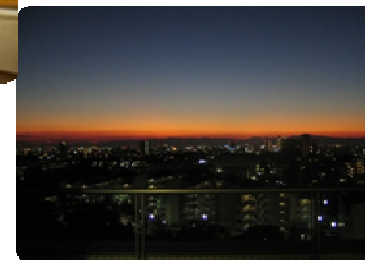
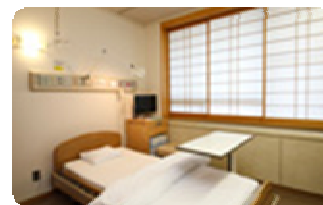


入院治療から自宅療養へ
シームレスな地域連携



退院調整室 にご相談下さい。
相談支援室

療養の場の選択への支援を行います。
在宅医療チームと連携し、安心して自宅
療養ができる援助を行います。



8 東病棟からみた夕暮れ

家族ケア

緩和ケアを受けられるのは、患者さん
だけではありません



御本人はもちろん、御家族の方々の抱える不安や苦しみへの援助も行っています





緩和ケア・疼痛看護外来 開設のお知らせ

外来通院をされている患者さんや御家族の困っていることを一緒に考え、解決できるようにお手伝いさせていただく看護相談外来です。「がんによる体の痛みをとりたい」「痛み止めやその副作用について知りたい」など体や心の痛みが少しでも和らぎ、安心して通院治療や自宅療養ができるようにサポートします。

開設 6月1日から 一人30分程度

月～金 9時～13時

相談方法 主治医、外来看護師

に声をかけてください。

医師の診察があるときに看護相談を受けられます。

緩和ケア外来管理指導料

がん性疼痛管理指導料を月に1回算定します。

愛知県がんセンター中央病院 緩和ケアチーム





情報ホームページの紹介

・独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター がん情報サービス
<http://ganjyoho.jp/public/index.html>

・がんナビ(日経メディカル) <http://medical.nikkeibp.co.jp/inc/all/cancernavi/>

・静岡県立 静岡がんセンター よろず相談 <http://www.scchr.jp/>

・Hope Tree (パパやママが“がん”になったら) <http://www.hope-tree.jp>

・がんを知って歩む会(愛知県がんセンター中央病院)
～ がんと共に積極的に生きていくための支援～

・痛みのおはなし冊子

(愛知県がんセンター中央病院 緩和ケアチーム薬剤部作成)

<http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/02shinryo/kakuka/img/yakuzai/itamiohanashi.pdf>

